

IAUD Newsletter vol.5 第11号 (2012年10月号) 目次

1. 特集：「第4回国際UD会議 2012 in 福岡」開催速報・・・ 1
2. 手話用語SWG発足&メンバー募集・・・ 21
3. IAUD 11月の予定・・・ 22



The 4th International Conference for Universal Design in FUKUOKA 2012

第4回国際ユニヴァーサルデザイン会議2012 in 福岡

22の国と地域から、延べ11,400名が来場

～特集：国際UD会議 開催速報

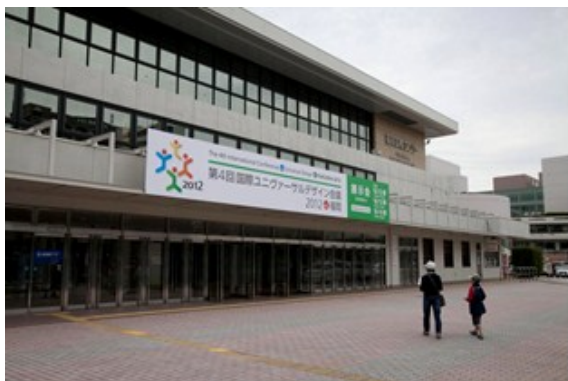


瑤子女王殿下にご臨席いただいた開会式

テーマ「安心・安全～UDの基本を考える」



10月12日（金）から14日（日）まで、福岡国際会議場（左写真）と福岡国際センター（次頁写真）などで開催された「第4回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2012 in 福岡」は、世界22カ国・地域から約11,400名のご参加をいただき、大変盛況のうちに終了いたしました。



今回は、2011年3月11日に起きた東日本大震災から学んだ教訓を踏まえ、「安全・安心～UDの基本を考える」をテーマに、「安全・安心」というUDの底流にある基本的概念をもう一度捉え直し、社会生活全般に渡る総点検を行いました。

来場者で賑わう福岡国際会議場の総合受付↓



被災地関係者や国内外の専門家32名を講師にお迎えした基調講演や各種セッションでは熱い議論が行われたほか、展示会では質の高いUD事例が紹介されました。

また、多くの方々にUD関連の製品展示や議論にご参加いただき、UDを多くの人に知って、理解していただくよい機会となりました。

Newsletterでは3回にわたり、国際会議の模様をお伝えします。

今号ではIAUD情報交流センターのメンバーが取材した会議プログラムの全体概要を、日を追ってご紹介します。

※HPにも会議速報が掲載されています。こちらをあわせてご参照ください。

<http://www.iaud.net/dayori-f/archives/1210/20-000000.php>

10月12日（金曜日） 瑤子女王殿下がご臨席



秋晴れに恵まれた中、福岡国際会議場メインホールにて、開会式と公開シンポジウムなどが開催されました。また、併設展示会が福岡国際センターで一般公開されました。総裁・故寛仁親王殿下のご次女である瑤子女王殿下には開会式と公開シンポジウムなどにご臨席いただきました。

また、併設展示会は12時からの一般公開に先立ち内覧会が行われ、瑤子女王殿下もご観覧になられました。



国際会議中の情報保障は、英語・日本語による同時通訳をレシーバーで聴講できたほか、前方スクリーンに英語・日本語の同時字幕の投影、磁気ループによる補聴システムの実施、さらに壇上には日本語の手話通訳が用意されました。また、車いすの貸し出しや託児所も用意されました。



■開会式



瑤子女王殿下のご臨席のもと、各界から来賓をお招きしての開会式が開催されました。司会はNHK福岡放送局の田中朋樹氏。伊久哲夫組織委員会副会長による開会の辞の冒頭では、本年薨去された故寛仁親王殿下と故山本卓眞 IAUD 会長に黙祷が捧げられました。(左写真)
その後、野田佳彦内閣総理大臣様のご挨拶を、山崎史郎内閣府政策統括官様に代読頂きました。

さらに、開催地を代表して小川洋福岡県知事と高島宗一郎福岡市長から歓迎のご挨拶がありました。その後、栗原克己組織委員による閉会の辞をもって終了しました。



伊久副会長



山崎内閣府政策統括官



小川福岡県知事



高島福岡市長

■公開シンポジウム

KBC九州朝日放送の細谷めぐみ氏の司会のもと、「記念講演」と2つの基調講演、「パネルディスカッション」、「48時間デザインマラソンプレゼンテーション／表彰式」からなる公開シンポジウムが開催されました。

公開シンポジウムをご聴講される瑤子女王殿下→



◆記念講演：「ユニヴァーサルデザインの新たな挑戦」 [戸田 一雄](#) (IAUD 顧問)



故寛仁親王殿下への感謝を黙祷で表明した後、殿下のご指導による IAUD 発足の経緯などを具体的なエピソードを交えて紹介しました。これまでの国際 UD 会議の内容と成果を紹介し、その意義を確認しました。さらに、東日本大震災発生後の世界各国からの支援に感謝するとともに、被爆国、津波被災国、原発事故経験国である日本は災害に備え、人間性を大切にする UD による課題の克服を各国と協力しようと呼びかけました。

◆基調講演 1：「平常と非常の境」 [曾野 綾子](#) (作家)

賢い老い方を説いた『老いの才覚』がミリオンセラーになった曾野氏は、自身のアフリカでの支援事例を紹介し、文化や社会環境の日本との違いを述べられました。また、東日本大震災については、日本の終戦直後と比較して、いかに現在の日本が恵まれており、世界では特殊な環境かを指摘しました。最後に、各国の良いところも見て、老人がより活躍できる国にしようと締めくくりました。



◆基調講演 2：「これからの建築を考える」 [伊東 豊雄](#) (建築家／多摩美術大学客員教授)



国際的に活躍する建築家の伊東氏は、バリアは壁であり、「機能」「性能」「プライバシー」という 3 つの壁を指摘。バリアフリーは「壁」の取り払いであるとし、自身の建築における革新的事例をご紹介いただきました。まず、機能の壁を取り払った「せんだいメディアテーク」の事例では、空間の共有により老人が活性化する効果があったと説明。さらに、性能の壁を取り払った事例では、高層ビルの高さを活かした自然空調を、プライバシーの壁を取り払った事例では東日本大震災後の仮設住宅に建てた「みんなの家」の交流空間についてお話しいただきました。

◆パネルディスカッション：「災害に備えるための UD」



小島文代実行委員長をコーディネーターに、世界各国から 4 人の専門家が、これまでの災害現場で見てきた課題などについて、それぞれの観点で紹介しました。その後、災害とコミュニケーション、文化や地域の違いをキーワードに議論が進み、今後の有効な施策の方向性が提示されました。

ミホ・マゼレウ（マサチューセッツ工科大学講師：米国）

防波堤の高さや避難路の長さ、坂道斜度、階段や車の渋滞などが災害時にいかにバリアになるか、現地調査のデータと共に報告しました。また、非日常性のためにメンテナンスコストが割高になる災害特化施設の課題も提起しました。

さらに、課題解決策として移動時間の最短化や緩い傾斜地を随所に取り入れた公園や、食料庫を兼ねた避難所の設置など「ユニヴァーサルアクセス」を提案しました。



田村 太郎（財団法人ダイバーシティ研究所代表理事）



東日本大震災後、被災地での活動から感じた様々な問題点や災害に備えるための仮設住宅のデザインについて報告していただきました。また、避難所では遠くて暗いトイレに行くのが困難であるため、あえて水を飲まなくなり、それが原因で喉や血管系のトラブルが発生しているとしました。さらに、水害や台風などに対応している日本の避難住宅の基本的な考え方は、地震などの長期化にはそぐわない、生活の場としての適性或工事現場的建物などデザインの問題が多いなどと指摘しました。

ラーマ・ギーラオ

（王立芸術大学院ヘレンハムリンセンセンター副所長：英国）

災害、暴動、テロでの様々な問題点や課題を指摘し、人は多様であり人権の尊厳はミニマムであること、プライバシーを守ることの有効性を提起しました。さらに、災害時の排斥行動など国や宗教、文化に起因する諸例も報告しました。また、災害時を想定したシーンをデザイナーと開発者とが一緒に考えることの重要性を指摘しました。



董 华（同済大学特任教授：中国／ブルネル大学上級講師：英国）
災害時 UD の効率的な開発方法として、通常思わない使い方や多様性を考えることが重要と指摘しました。さらに、対等の立場で発想していくこと、また人々に権限を委譲することが大切であり、住宅は建築家と居住者とが一緒に考える仕組みが必要だと述べました。

小島 文代（実行委員長/IAUD 理事長）

東日本大震災後に IAUD が取り組んできた主な取り組みを紹介しました。まず、研究部会がそれぞれ実施した震災をテーマにしたワークショップや勉強会、講演会などを説明。さらに、「震災復興の現場において UD ができることは何なのか」をテーマに今年 3 月に開催した「国際会議プレイヴェント」を紹介したほか、不慮の災害からの復旧・復興・復活に役立つ、持続可能な共生社会の実現に向けた革新的な UD 活動や提案を広く国内外に求めた「IAUD アワード 2012」を紹介しました。



◆48 時間デザインマラソン プレゼンテーション／表彰式



10月10日(水)から九州大学芸術工学部 多次元デザイン実験棟で開催されたユーザー参加型ワークショップ「48 時間デザインマラソン in 福岡」のプレゼンテーションと表彰式が行われました。

今回は「福岡観光の魅力を向上させるユニヴァーサルデザイン」をテーマに、6チーム46名が参加。この日は来場者に対し各チームが8分間のプレゼンテーションを行い、その後の公開審査では、「ベストデザイン賞」と「ベストプレゼンテーション賞」

が決定しました。

※「48 時間デザインマラソン in 福岡」は次号の Newsletter に詳細な報告を掲載します。

■歓迎演奏会

航空自衛隊西部航空音楽隊によるブラスバンド演奏をご鑑賞いただきました。

「祝典行進曲」や童謡「砂山」、NHK 大河ドラマのメドレー、「航空自衛隊行進曲」など多彩で厳格な演奏技術が披露されました。



■歓迎レセプション



瑤子女王殿下にご臨席いただき、本会議出席者への歓迎の意を表すレセプションが開催されました。

岩下博樹組織委員の開会の挨拶、小川福岡県知事、高島福岡市長、末吉紀雄福岡商工会議所会頭による歓迎の挨拶の後、宮城県名取市の佐々木酒造店様のご協力による鏡割りが行われました。

また、石原進組織委員会/JR 九州会長による献杯のご発声の後、参加者で和やかな歓談が行われました。伊久哲夫組織委員会副会長の閉会の辞で終了しました。



10月13日（土曜日） 被災地からの食材で炊き出し実演

UDにかかわる様々なテーマについての基調講演、パネルディスカッション、論文発表セッション、ランチョンセッション等からなる本会議が、13日と14日にかけてメインホールと国際会議室、中会議室で行われました。

また、屋外展示での特別企画展「命を救うデザイン」では、海上自衛隊護衛艦「さわゆき」の船内見学や陸上自衛隊による炊き出しの実演（右写真）などが行われ、小さいお子さまを含む家族連れを中心に、予想を上回る人数のご参加をいただきました。



■セッション1：UDのグローバル展開

相互連携し協力して世界のUD発展を進めるためには一体何をすべきか、[オンニ・エイクハウグ](#)氏（右写真、ノルウェーデザイン協議会プログラムリーダー：ノルウェー）をコーディネーターに、欧州と英国を代表して2名の基調講演者を迎え、本会議の口火を切っていただきました。



[フランセスク・アラガイ](#)

（デザインフォーオール財団代表：スペイン）

[「世界的取り組みの土台」](#)

UDは人間の権利や義務に完全に整合し、権利や義務を果たす実用的手段や方法をもたらすものであると述べました。さらに、UDの取り組みは統一する必要があるとあり、共感（立場を変えて考える）の姿勢と、政府と一般市民の提携を推進して発展を共有する姿勢を育む必要があると提案しました。



[ラーマ・ギーラオ](#)（王立芸術大学院ヘレンハムリンセンター副所長：英国）

[「ユニヴァーサルデザイン、ユニヴァーサルチャレンジ：21世紀における人間中心デザインの進歩」](#)

UDの進化と変化、新たに貢献が出来る局面について説明。さらに、全世界における人間中心のアプローチを集めて一元化し、そこからメリットを得るにはどうしたらよいかについて考察するとともに、実践的方法およびその実例を紹介しました。

■セッション 2：大震災を乗り越えて

東日本大震災や近年、国内外で発生した様々な大災害からの復旧・復興を担った4人をお招きし、それぞれの復興・支援活動がどのように行なわれたのか、お話しいただきました



佐々木 一十郎（宮城県名取市長）

「震災後の情報発信の在り方とまちづくりについて」

地震発生後1時間5分で津波が発生し、その後は避難所の開設、避難所の食料・飲料・燃料の確保、並行して被災者の救助、行方不明者の捜索、それに伴う重機など業者への協力に奔走した状況を説明。また被災後の情報入手手段はラジオ、家族・隣人、テレビと、電源が断たれた中ではアナログツールに効果があったと述べました。



須川 哲治（元福岡市都市整備局玄界島復興担当部長）

かつて担当した玄界島復興事業を説明していただきました。島全戸の半分が全壊した被災から3年で復興した様子を述べたほか、「復興委員」の活躍など地元との信頼関係の重要性について説明しました。



スリニバサ・ポプリ

（国連人間居住計画（ハビタット）福岡本部上級人間居住専門官）

福岡に本部を置くアジア太平洋オフィスの専門官から「訓練する予防」、「アプローチ」などのキーワードを交え、国連人間居住計画（97年設立）の災害、再建の後の活動プログラムを紹介していただきました。



ミホ・マゼレウ（マサチューセッツ工科大学講師：米国）

復興プロジェクトにおけるアイデア事例の紹介がありました。

■ランチョンセミナー

各企業のUD方針や製品事例を、昼食をとりながら紹介する特別セミナー。今回はパナソニック㈱、㈱丹青社、花王㈱の3社が開催しました。



パナソニック株式会社「進化するパナソニックのユニバーサルデザイン」

創業以来変わることなく継続しているポイントと、時代の変化に応じて進化させていくポイントについて、お客様を「住宅空間」、「非住宅空間」、「モビリティ」、「パーソナル」の4象限でとらえ、それぞれの場（空間）でUDのお役立ちを追及する商品事例等を紹介しました。



株式会社丹青社「ミュージアムづくりを共に体験し、共に考える」

多様なユーザーと体験を共有し、共に考えながらUDに配慮したミュージアムづくりを進めるプロセスを福岡市博物館の実例を交えて紹介しました。



花王株式会社「ソーシャル・インクルージョンをめざした花王の取組み」

超高齢化社会を迎え、CM字幕化の取り組みや、誰にでも使いやすい商品の開発を行なっており、Social Inclusion（人や社会とつながるモノづくり）をめざす花王のUDについて紹介しました。

■公開セミナー／セッション3：救難・救助～災害出動におけるUD

東日本大震災における災害出動として被災地の救難救助にあたった、陸上／海上／航空自衛隊の方々を講演者に、陸海空のそれぞれの実際の救難救助活動がどのように展開されたのか、また活動を遂行する上で新たにクローズアップされた問題点は何か、お話ししていただきました。



富井 稔（陸上自衛隊第5施設団長兼小郡駐屯地司令 陸将補）

現場に寄り添ったUD的配慮の活動事例として、「御用聞き」としてきめ細かや対応をした事例と、女性には女性隊員が対応した事例を紹介。また「お話し合い隊」としてそれぞれの地域の方言を使用したり、救援物資仕分けでは女性隊員が参加した例などを報告しました。



米丸 祥一（海上自衛隊佐世保地方総監部監察官 2等海佐）

海上（護衛艦隊）からの救助の特徴として、陸路不使用対応、単体長期間滞留可能、小型小回り、広域対応など機動性が発揮した事例を紹介。また、補給、物資搬送、人命救助、港湾調査など主な任務についても説明していただきました。



杉山 政樹（航空自衛隊西部航空方面隊副司令官 空将補）

滑走路確保→遺体搬送→支援部隊搬送→集中搜索／救助→生活（炊出、入浴）支援→物資整理支援と、活動を時系列に紹介しました。

■公開セミナー／セッション4：安全・安心～治安・防災における UD

毎年のように九州地方を襲う台風や集中豪雨、その他様々な災害や事故において、救難、防災、治安等の活動に従事する海上保安庁、消防庁、警察庁より講演者をお招きし、活動内容や活動を遂行する上の問題点などをお話ししていただきました。



太田 吉一（海上保安庁第七管区海上保安本部 警備救難部長）

安全と治安の確保、海難救助、法令の執行、警備などについて説明がありました。さらに防災として「救助を求める人の声を聞く」「どのようにして行くのか」「どのような手順で（運ぶのか、治療するのか）」などの能力を培うための日常の活動や新しい遭難・安全通信システム GMDSS や緊急通報用電話番号 118 番（110 番や 119 番と同列）についてお話しされました。



藤原 謙治（福岡市消防局 警防部長 消防正監）

救急出動件数等の統計より病院到着時間の平均速さは全国 1 位であるとのお話しの後、県外からの応援体制や消防組織法による連携（市→県→国）強化の説明がありました。このたびの東日本大震災では被災地 3 県を除く 44 県が応援に駆け付け、震災後 72 時間が救済のタイムリミットという制約の中での「自助・共助・公助」を強調されました。



柴田 和敏（福岡県警察本部 警備部警備課管理官）

警察の災害警備活動や災害救助部隊について説明された後、東日本大震災後では現地に災害警備活動のために出動した様子を紹介。現場の捜索、交通検問、警邏活動等に当たったほか、事前準備の重要性と隊員の健康管理にも配慮したこと、また地域住民との交流で激励されたエピソードをお話いただきました。

■公開セミナー／セッション5： 安全・安心な地域社会づくり

清水 鳩子氏（右写真、主婦連合会 参与）をコーディネーターに、それぞれの自治体の特殊な事情を踏まえつつ、UDの観点からこれまで取り組んできたことや、今後はどのような提案が望まれるか等についてお話いただきました。



古川 康（佐賀県知事）

今まで別々に行っていた障害者、健常者、高齢者のスポーツ大会を、来年は一つのスポーツの祭典としての開催を目指していること、また、11月23日から開催する「バラエティ・アート・フェスタさが2012」について、誰もが参加し、楽しめるものにしたいなど、UDに関する佐賀県の主な取り組みを紹介していただきました。



潮谷 義子（元熊本県知事）

「UDは時代が必要とし、時代をリードするものである」

2期8年間の知事時代、人権と平等と自己実現が図られ「だれもが暮らしやすく豊かなくまもと」の実現をめざすためにUDを基本理念とし、UDを県政に根付かせ、県民に理解してもらうために取り組んできたことお話しされたほか、東日本大震災と今年7月の北部九州豪雨災害時での県職員の対応には、UDの精神が活かされていたと述べられました。



高島 宗一郎（福岡市長）

「ユニバーサル都市・福岡」を提案した背景や実施してきた具体的な取り組みを紹介されたほか、その考え方や目標像をより広く市民に理解してもらうために「ユニバーサル都市・福岡フェスティバル」を開催したこと、さらに「安心・安全」な地域社会づくりに向けて、ハード・ソフト両面から防災対策の強化に取り組んできたことをお話しされました。

■公開ワークショップ／ビジネス&デザイン：人間中心デザインの考え方



UD 手法を体験するワークショップが各国からの講師を迎えて一般公開で行われました。今回は「人間中心デザインの考え方」をテーマに、製品やサービスが消費者のニーズや願望と一致しているかを確認する方法を検証しました。また、より人間中心でビジネスに対応できる方法を探ったほか、UD アプローチを世界的な組織がどう取り入れているかも見えていきました。

講師（写真左より）：

[ラーマ・ギーラオ](#)

（王立芸術大学院ヘレンハムリンセンター副
所長：英国）

[オンニ・エイクハウグ](#)

（ノルウェーデザイン協議会プログラムリー
ダー：ノルウェー）

[フランセスク・アラガイ](#)

（デザインフォーオール財団代表：スペイン）

※ショーン・ドナヒュー氏はご本人の都合により不参加となりました。



まず、講師陣から「UD は誰に聞くか、何に注目するかが重要である。多人数に聞くより少人数から多数のインスピレーションを得ることを重視したい」と説明がありました。その後、参加者を 6 名程度のチームに分け、実際のユーザーの自宅写真を基に、困り事を解決するアイデアをチーム内で出し合い、各チームが発表を行いました。新たな体験に満ちたワークショップとなり、講師陣からも参加者に対し賞賛の言葉がありました。

■論文発表セッション

国内外から応募のあった 176 の論文の中から厳正な審査を通過した 41 本の論文を 13 日と 14 日の 2 日間、テーマごとに 9 つのセッションに分けて発表されました。13 日はテーマ「ウェブデザイン」、「UD 理念」、「建築・地域計画」、「製品デザイン 1」、「製品デザイン 2」、14 日は「住宅・建築」、「医療・健康」、「交通」、「字幕」でした。



■ポスターセッション



国内外から応募のあった論文の中から審査を通過した 43 本の論文を、13 日と 14 日の 2 日に分けて、国際会議場 5 階ロビーにポスター形式で掲示されました。

10 月 14 日（日曜日）

「国際ユニヴァーサルデザイン宣言 2012」を発表



会議最終日には 3 日間にわたる会議全体を総括するプログラムが行われたほか、閉会式では「国際ユニヴァーサルデザイン宣言 2012」が発表されました。また、UD の更なる普及と実現をめざす一環として、第 1 回「UD 検定」が実施されました。

会議を総括したクロージング・セッション

■第1回 UD 検定

IAUD が UD の更なる普及と実現をめざす活動の一環としてスタートさせた、第1回 UD 検定が、国際会議中に実施されました。今回は約40名が参加。UD に関する基礎的な知識を学習する2時間の講習会と1時間の検定試験がセットで実施されました。

※第1回 UD 検定の開催報告は11月に発行の Newsletter に詳しく掲載します。



■セッション6：東アジアにおける UD

韓国、中国、香港の3名の専門家から、自国における UD の現状や問題点についてお話しいただきました。



高 榮俊（ソウル科学技術大学校デザイン学科教授／韓国デザイン学会副会長：韓国）

「韓国のユニバーサルデザイン」

高齢化の進行や韓国を訪れる外国人の増加のため、大学における UD 教育は充実し、各企業も UD 製品開発に力をいれており、韓国の UD は進化していると実例を述べました。また韓国では大企業の関心が薄いのに比べ、日本では大企業が率先して UD に取り組んでいると賛辞が送られました。



董 华（同済大学特任教授：中国／ブルネル大学上級講師：英国）

中国における UD の状況として、2008年のオリンピック、2010年の万国博覧会によりバリアフリーの環境が約100都市に整備され、現在は113万人のデザイン学生が UD を学んでいるとお話しました。さらに、UD 普及のためにはニーズに合わせたデータベースの構築やベストプラクティスの研究、ガイドライン等の作成が必要であると述べられました。



陳 麗喬（香港建築センター副所長：香港）

「香港は万人のための都市か？」

過密な香港の居住環境を紹介し、公共交通機関の UD は発達しているとし、狭いスペースを有効活用するために色々なアイデアが生まれたとお話しされました。また、UD の普及には空間の解決が必要であると提示されました。

■セッション7:

サステナビリティ～安全・安心な社会の創造、発展、そして継承

障害者のためのデザイン、高齢化問題、そしてサステイナブルデザインの分野にそれぞれ長年携わってきた専門家を迎え、高齢者や障害者を含む多様な人々が快適に暮らせる、持続可能な社会である「サステナビリティ」について議論が行われました。



荒井 利春 (金沢美術工芸大学デザイン科教授)

「多様なユーザーとともに道具や環境の新たな原型を創造する」
高齢者や障害のあるユーザー参加による道具の開発、地場産業の育成、企業での開発プロジェクト、公共建築の設計、デザイン教育などをご紹介いただきました。また、使い手と作り手の見えない壁を破るために両者が話し合う場が必要だと強調されました。



白石 正明 (国際プロダクティブ・エイジング研究所代表)

「長寿時代とサステナビリティ～光と影、発想とマーケティング戦略～」

高齢化 Aging の特徴は「多様化」であり、UD の発想も深層心理に潜む「より人間的な何か」に求められるのではなかろうかと提案しました。さらに、発想と「世界戦略」を武器に着々と実績を拡大している例を紹介し、社会との接触が豊かな人ほど元気で長生きであり、移動手段の重要性が提起されました。



益田 文和 (デザインコンサルタント／東京造形大学教授)

「サステイナブルなユニヴァーサルデザイン」

バックキャスティング（未来に視座を置いて現在を見る）によるサステイナブル社会の実現と、東日本大震災を踏まえ、自然災害に際して全ての人間は障害者となると述べられました。

■IAUD アワード 2012 プレゼンテーション／表彰式



34 件（海外からの応募 2 件）のエントリーの中から、IAUD アワード 2012 審査委員会（委員長：ロジャー・コールマン 英国王立芸術大学院名誉教授）による厳正・中立な審査の結果、「特別賞」、「大賞」、ほか各部門の「金賞」および「銀賞」として 11 点が選定され、岡本一雄組織委員会会長より表彰状が授与されました。

←「特別賞/寛仁親王賞」を受賞した「株式会社リコにおける東日本大震災被災地復興支援活動」

さらに、受賞者によるプレゼンテーション（金賞以上）とコールマン委員長から各受賞が評価されたポイントなど講評が行われました。

審査委員会メンバーと岡本会長（右）→



※金賞以上の受賞の取り組みは今後の Newsletter に掲載します。

■セッション 8：サステナビリティ～安全・安心なエネルギー資源

安全・安心なエネルギー資源の確立が喫緊の課題である現在、「風力」「地熱」という再生可能エネルギーをいかに活用するのか、2人の専門家に具体的な事例を交えてご紹介いただきました。また、将来の安全・安心なエネルギー資源としての活用に向けた課題についても提言をいただきました。



大屋 裕二（九州大学応用力学研究所所長／新エネルギー力学部門風工学分野教授）

「サステナビリティ～安全・安心なエネルギー資源」

風力を利用して、より効果的に発電できる「レンズ風車」の活用方法について具体的な事例をご説明いただきました。また、将来的には、世界でも第6位と広い日本の EEZ（排他的経済水域）を有効に活用した、多目的な「洋上浮体式複合エネルギーファーム」の実現に向けた課題を提起されました。



松永 烈

（産業技術総合研究所名誉リサーチャー／日本地熱学会会長）

「有望な再生可能エネルギー、地熱資源の開発と利用に向けて」

世界で第3位とストックされている膨大な地熱資源の有効活用に向けて、設備コスト・国立公園との関係等の課題を克服する必要性を述べられました。さらに、将来的には、長期的展望に立ったシステムの構築・各技術開発・人材育成等の必要性を訴えられました。

■セッション 9（クロージング・セッション）： 安全・安心～持続可能な世界

今回の国際会議を総括し、成果は何か、新たに明らかになったことは何か、今後の議論ポイントは何か等について、川原 啓嗣氏（右写真、IAUD 専務理事）をコーディネーターに、各国の UD 関連団体の代表や専門家の方々と話し合いが行われました。





ロジャー・コールマン（王立芸術大学院名誉教授：英国）

UD 活動を展開するに当たり、どこにフォーカスし何を実行すべきかがこの会議で明らかになったとし、企業や自治体は生活者の立場に立って、生活者とともに UD 活動を実行することが大切と述べました。また、幅広く応用できる方法論と人にやさしい施策で社会を変えられる、少数の人々のためではなく、みんなの生活を良くする活動を実践し、その内容を共有することが大切であると提案しました。



ヴァレリー・フレッチャー（人間中心デザイン研究所所長：米国）

大震災後の日本での対応事例を世界に広げる必要があり、日本の UD 活動は多くの企業が参加していることがすばらしい、と述べました。さらに、活動は個人に頼っていては難しく、今後はエコノミスト等も巻き込む必要があると提案し、IAUD の活動はユニークでありグローバルに展開してほしい、活動は学術と一般市民のバランスを取る必要性がある、と述べられました。



フランセスク・アラガイ（デザインフォーオール財団代表：スペイン）

UD の活動は権利としてではなく、心から生まれるものであるべきで、親身になって考えるということであり、非常に日本的な発想だが、そこから学ぶべきことは多いと述べました。また、各機関の結集が大切であり、市民の熱意で力は増幅するだろう、今は UD を社会の各分野で実行に移すときである、と述べられました。



小島 文代（実行委員長/IAUD 理事長）

今回はあまり専門的にならずに、多くの人に参加してもらい、理解してもらったことは有意義であったと述べました。また、今後は良い事例を共有するとともにグローバルに展開し、発展させる仕組みもあるとよいとしました。さらに、若い人がリーダーとして頑張る仕組み作りも必要で、今後、グローバルという横の関係と、世代という縦の関係のつながりが出来ることが望ましいと述べられました。

■閉会式



岡本一雄組織委員会会長（左写真）の感謝のご挨拶がありました。

さらに、論文審査委員長のヴァレリー・フレッチャー氏（右写真）から、国内外から応募のあった 176 の論文の中から選出された優秀論文 2 本の発表が行われました。

優秀論文：

Examining Effectiveness of Universal Design Education in Japan at Primary and Secondary School Level

高山 靖子、古瀬 敏、林 左和子、野村 佳代

(静岡文化芸術大学：日本)

Universal Design Education through Design Competition in India

Rachna Khare, Ajay Khare

(School of Planning and Architecture, Sports Complex, MANIT Campus：インド)

その後、世界 5 か国 5 団体による「グローバルコミットメント」が公開され、代表により調印が行われました。

10 月 20 日から www.societyforall.org にて、このイニシアチブに参加、支援、コメントが出来るようになっていきます。また、詳細に関してもこちらにアクセスしてください。



グローバルコミットメント

2012 年 10 月 14 日福岡市

わたしたちは以下を認める

諸権利：

- ・ 幸福な生活のために必要な環境・もの・サービスへの最大限のアクセス
- ・ 個人および集団の相違を尊重
- ・ 個人および社会の一員としての可能性を開発する

義務：

- ・ これら諸権利の行使を尊重し推進する
- ・ 次世代のために持続可能性を推進する
- ・ わたしたち一人ひとりがより良い社会をつくる貢献をする

実現のためにわたしたちは、以下を認識する：

- ・ 環境・もの・サービスへの最大限のアクセスを可能にする
- ・ 官・民のみならず市民レベルでの協調・提携を推進し、幸せな暮らしができる社会を共に創る
- ・ お互いの相違点を認め、目標、思想、方法、実践、課題における共通点を尊重する

わたしたちの意図：

- ・ 全ての人のための社会を目指し、グローバル公約を行う
- ・ 全ての人のための社会を目指し、UD/ID/DfA/HCD の取り組みを統一するためのシンプルなドキュメントの共創を促す
- ・ 異なるセクター別のリーダーを特定し、実践に組み込む
- ・ 世界的な普及に向けた人間中心のアプローチの必要性

作業提携協定書をここに署名する：

Art Center College of Design
国際ユニヴァーサルデザイン協議会
Design for All Foundation
Helen Hamlyn Centre for Design
Norwegian Design Council



最後に小島文代実行委員長から、会議全体の議論状況を踏まえ、「国際ユニヴァーサルデザイン宣言 2012」が読み上げられ、3 日間にわたる国際会議が閉幕しました。

国際開催に向け、皆様には様々な面で絶大なるご支援、ご協力を賜り、誠にありがとうございました。IAUD はこれからも、今回の国際会議で得たもの、課題となったものなど、会議の総括をしっかりと行い、次のステップに繋がたいと考えています。

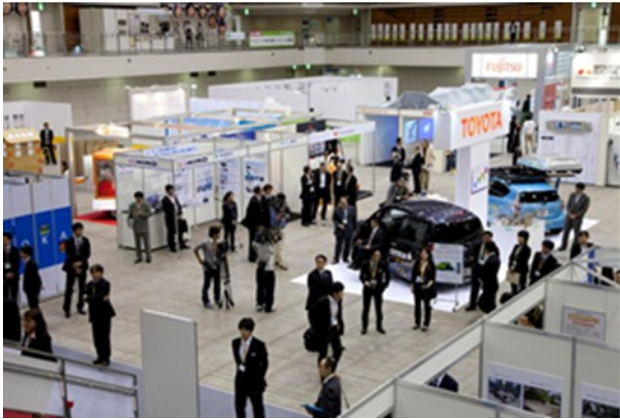
第 4 回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2012 in 福岡 大会宣言

2011 年 3 月 11 日に起こった大災害は、
抗いがたい自然の力と、
それを乗り越えていく人びとの強さを、私たちに教えた。
非常時には誰もがそれぞれの困難に立ち向かわなければならないということを学んだ私たちは、
ユニヴァーサルデザインの考え方の原点に立ち帰り、
人びとの間の隔てを取り除き、私たちみんなが生きる喜びを実感できる、
新しい社会の構築に歩み出さなければならない。

地球に負担をかけない技術。
持続可能な社会を創る技術。
特定の人を不利な立場に追いやらない技術。
人びとの幸せを支える技術。
それらの技術をどうデザインして使いこなすかは、
私たち「人」にかかっている。
寛仁親王殿下のご遺訓にあるように、それは私たちが一生をかけるに値する命題である。

一人ひとりの力は小さくても、
それをつなぎ合わせると大きな力になることを私たちは知っている。
私たちはさまざまな価値観を超えて手をつながなければならない。
安全・安心な社会のために、
私たちの小さな力とユニヴァーサルデザインの考え方が
大きく貢献できることは明らかである。
そのことを確認して、この会議の成果としてここに宣言する。

■展示会：屋内展示



12日から14日の3日間、福岡国際センターで開催された屋内展示では、企業・団体などの最先端のUD事例や製品、研究成果などが展示されました。



13日には「ユニヴァーサルトーク」(右写真)としてIAUD研究部会の活動内容の活動内容が発表された他、高齢者疑似体験ツールを使って来場者による避難グッズのUD評価を実施しました。

■展示会：屋外展示 特別企画展「命を救うデザイン」



海上自衛隊護衛艦「さわゆき」の船内見学

中央埠頭イベントバースで開催された屋外展示では、特別企画展「命を救うデザイン」が開催されました。防衛省，海上保安庁，福岡県警，福岡市消防局から特別にご協力いただき、災害対応における様々な車両、船舶機材等が展示されました。

被災地の材料で炊き出しの実演

東北の被災地で救難救助にあたった陸上自衛隊による炊き出しの実演では、「復興支援カレー」をご試食いただきました。

13日と14日の2日間で計300食を予定していましたが、あまりの人気に合計800食を供給する結果となる等、非常に盛況となりました。

カレーの材料のお米はJA福岡市様より、お米以外のすべての材料は被災地である宮城県名取市の「関上（ゆりあげ）さいかい市場」様より、ご提供いただきました。





東日本大震災の影響を大きく受けた名取市閑上地区は、津波でほとんどの店が流されましたが、2012年2月より名取市復興支援仮設プレファブ店舗の「閑上さいかい市場」（右写真）がオープンしました。被災によって停止していた事業の「再開」と、お客様との「再会」を目指して活動をしております。今回は被災地の皆様のご尽力により、名取市から福岡市まで材料を運んできていただきました。これからも、風評被害に苦しむ被災地の食品を食べて、復興を応援していきましょう。



※「展示会」「ユニヴァーサルトーク」の詳細は11月発行のNewsletterに掲載します。

手話用語サブワーキンググループ発足&メンバー募集

標準化研究WGでは、2012年11月から手話をテーマとした新たな取り組みを開始するため、「手話用語サブワーキンググループ(SWG)」を発足いたします。

手話用語 SWG とは

製品機能や付属品・消耗品の用語や名称、サービスに使われる単語や愛称など新しい言葉が次々と生み出されている一方、これらの言葉の多くには手話表現がなく、手話使用者は日常のコミュニケーションで困っています。

製品やサービスの作り手である私たちは、このような事実をしっかりと受け止め、手話使用者にも利用しやすいようにする必要があります。

11月よりスタートする手話用語SWGは、有識者・当事者を交えた交流会や意見交換会を企画し、言葉や文化が異なる人々にもできるだけ分かりやすいことも視野に入れた手話の検討をしながら、手話提供の標準化を目標に社会への普及促進を進めていきます。

手話用語 SWG メンバー募集！

業種業態を問わず一緒に活動していただけるメンバーを募集いたします。手話に興味のある方、聴覚に障害のある方、お客様との窓口業務に携わっている方等のご参加をお待ちしております。

参加希望の方は、参加申込書に必要事項（※印は必須項目）をご記入の上、FAX・メール添付・郵送にて事務局までご送付ください。

[参加申込書 \(PDF\) はこちら](#)

※HPに掲載中のご案内も合わせてご参照ください↓

<http://www.iaud.net/news-f/archives/1204/17-134308.php>

第1回手話用語 SWG 会議開催

日時：11月30日（金）14:00-17:00

場所：IAUD サロン

内容：メンバー自己紹介、手話用語 SWG 活動案の説明、意見交換など

※会議には手話通訳が入ります。

IAUD 2012年11月の予定

- 1日（木） 14時半～メディアのUDPJ定例会（IAUD サロン）
- 2日（金） 14時～ WS委員会会合（IAUD サロン）
- 12日（月） 15時～ 研究部会会合（IAUD サロン）
- 15日（木） 15時～ 協同事業検討委員会会合（IAUD サロン）
- 16日（金） 13時半～ 標準化研究WG定例会（トヨタ自動車㈱東京ビル）
- 19日（月） 15時～ 情報交流センター会合（IAUD サロン）
- 21日（水） 13時～ 運営企画会議会合（IAUD サロン）
15時～ 実行委員会会合（IAUD サロン）
- 26日（月） 10時～ 住空間PJ定例会（IAUD サロン）
- 29日（木） 11時～ 理事会会合（大日本印刷㈱五反田会議室）
- 30日（金） 14時～ 手話用語サブワーキンググループ会議定例会（IAUD サロン）

メンバー募集中の研究部会・委員会はこちら↓

<http://www.iaud.net/news-f/archives/1204/17-134308.php>

次号は11月上旬発行予定

特集：国際UD会議開催報告②「48時間デザインマラソン in 福岡」など（予定）

無断転載禁止

IAUD 情報交流センター（IAUD サロン）：
〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-25-9 トヨタ八丁堀ビル 4 階
電話：03-5541-5846 FAX：03-5541-5847 e-mail：salon@iaud.net